

# 大豆栽培管理情報 (第3号)

## 1. 6月中旬の播種作業 ～栽植密度を高めて目標栽植本数を確実に確保～

- 大豆の基肥量の目安は大豆栽培管理情報第2号をご参照下さい。
- 大麦跡で大豆を作付けされる方は、大麦収穫後、すぐに播種できるように準備しましょう。
- 麦跡大豆は麦稈の腐熟に窒素が必要なため、基肥以外に耕起前に硫酸 10kg/10a を施用しましょう。

【6月中旬播種の場合の目標栽植本数と播種量等】

品 種	目標栽植本数 (kg/10a)	播種量(大粒) (kg/10a) (※)	スプロケット		目 皿
			目皿側	車輪側	
エンレイ	16,000～18,000	6.1～6.8	9～10	14	B-2
			13	10	B-22
シュウレイ	15,000～18,000	5.9～7.0	9～10	13～14	B-3

大麦跡等で目標播種量が入らない場合、目皿はB-22を使用する。

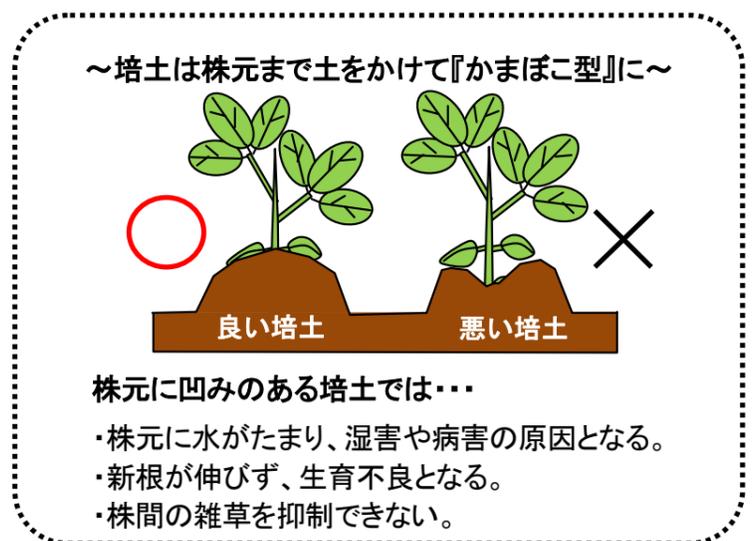
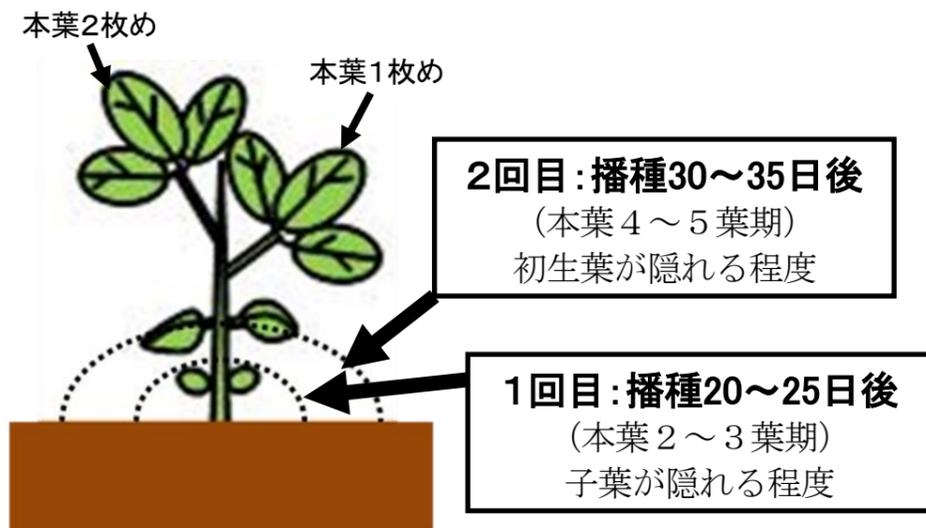
※百粒重はエンレイ大粒34.2g、シュウレイ35.1gで換算。条間 80 cm、1株2粒播種、苗立率 90%

## 2. 培土作業 ～1回目は遅れずに、2回目は確実に！～

- 培土作業は、圃場条件の良い時に、晴れ間を見て早めに行いましょう。
- 作業前に、培土板や耕うん爪を必ず点検しましょう。
- 適正な作業速度で、株元にしっかりと土をかけましょう。

### 培土の効果

- ①排水の促進と湿害防止
- ②根量と根粒菌の増加
- ③雑草の抑制
- ④倒伏の防止

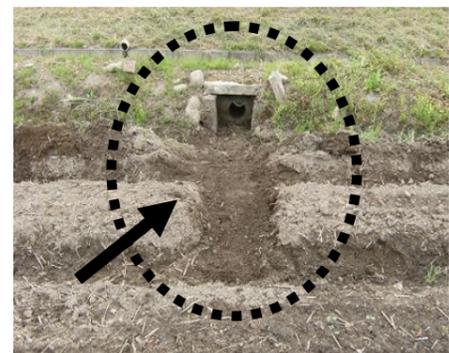


株元に凹みのある培土では…

- ・株元に水がたまり、湿害や病害の原因となる。
- ・新根が伸びず、生育不良となる。
- ・株間の雑草を抑制できない。

## 3. 排水溝の点検・手直し

- 生育量の確保には、本葉2～3葉期頃までの排水対策が最も重要です。
- 圃場に水が溜まらないよう、播種後および培土後には必ず排水溝を点検し、額縁排水溝や排水口に確実に連結しましょう。
- 降雨後にも溝の連結や排水溝の崩れの手直しを行い、雨水を停滞させないようにしましょう。



排水溝を連結し、水尻へつなげる

## 4. 帰化雑草の防除

- 管内で、アサガオ類等の帰化雑草の発生が見受けられます。
- 大豆圃場内でみかけた場合は、すぐに抜き取りましょう！



発生初期の帰化アサガオ類



圃場内での発生の様子



放置しておくと、圃場全面に広がります！